

国内子ども支援事業

子どもの居場所運営や子どもの権利の啓発活動に加え、入学祝い金の支給、民間シェルターに対する活動資金の助成を全国規模で展開するなど活動の幅を広げています。また、2024年1月から能登半島地震緊急支援を開始し、平時から災害時まで多岐にわたる活動に邁進した1年となりました。

子どもの居場所「みんなのへや」

2023年8月から、ワールド・ビジョン・ジャパンの事務所がある東京都中野区で、放課後と長期休み中の子どもの居場所「みんなのへや」を運営しています。2024年度は計48回開催し、延べ339名の子どもが参加しました。開始から1年以上が経ち、地域の方々にも支えられ、子どもたちがほっと一息つける居場所として定着しつつあります。

参加した子どもの声

すこい
ところだ
と思ういつも
遊んでもら
えて楽し
いです

保護者の声

みんなのへやが
ある日は、子どもが
活動的です。これから
もよろしくお願いします夕飯を友達と
食べられるのが嬉しい
ようです。親としても
とても助かります

夏休みのかき氷づくりの様子

ワールド・ビジョン・ジャパン
全国入学祝い金

進学や入学後の費用負担を少しでも軽減し、子どもたちの学びの機会を支える一助となるよう、全国の新中学生・新高校生(2024年度入学)を対象に「ワールド・ビジョン・ジャパン全国入学祝い金」を実施しました。新中学生には現金3万円と5千円分の図書カード、新高校生には現金5万円と1万円分の図書カードを200名に贈呈しました。定員を大幅に上回る1,242名から応募があり、選考外となった1,042名にも当初の計画を変更し、1人あたり500円の図書カードを贈呈しました。

モネの素敵な絵画の図書カードをいただき、美術が好きな子どもが大喜びし大切に保管しています。昨年のモネ展に行きたがっていましたが、家庭の都合により展示ポスターを眺めるだけでした。夏休みには検定試験のテキストを図書カードで買い、受験できました。さうだいも今年は課題図書を購入し、読書感想文の宿題に楽しみながら取り組んでいます。物価高の中の夏休みですが、あかげさまで楽しく学習や読書をして過ごすことができています。

(保護者からのメッセージの一部要約)

民間シェルター等への助成金

長引くコロナ禍で急増したDV・虐待等被害の状況を憂慮し、特に脆弱な環境にある子どもに支援を届けるために、2021年より全国のDV・虐待被害者等の宿泊型支援等(民間シェルター等)に対する活動資金の助成を行っています。2024年度は11団体に助成を実施しました。助成金は、宿泊型支援、または関連活動(食・学習・居住等の生活支援、啓発、相談、同行支援、自立支援、回復支援、支援者養成、人件費等)に活用されています。

2024年度助成先(団体名五十音順)

認定NPO法人いっくの学園(大阪府大阪市)
特定非営利活動法人オカヤマビューティサミット(岡山県岡山市)
特定非営利活動法人オフィス・マハロ(愛知県小牧市)
特定非営利活動法人女のスペース・おん(北海道札幌市)
認定特定非営利活動法人こどもの里(大阪府大阪市)
認定NPO法人CPAO(大阪府大阪市)
認定NPO法人女性と子ども支援センターウイメンズネット・こうべ(兵庫県)
一般社団法人女性と子どものエンパワメント研究所(福岡県久米市)
特定非営利活動法人女性ネットSaya-Saya(東京都)
特定非営利活動法人DV対策センター(神奈川県横浜市)
一般社団法人白鳥の森(徳島県徳島市)

能登半島地震緊急支援

一日も早く日常を取り戻すために

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震を受け、ワールド・ビジョン・ジャパンは、1月7日に第1陣のスタッフを石川県に派遣し、初動調査・対応を開始しました。被災した方々が一日も早く日常を取り戻せるよう、金沢市、七尾市、輪島市等で、行政、地域の教育関係者、教会、他の子ども支援団体と連携し、子ども支援活動を展開しました。皆さまからのご寄付により、①子どもの居場所・遊びの支援、②学校等の再開支援、③子どもを支援するおとなへの支援、④仮設住宅への物資支援を柱として活動し、9月末までに4,086人に支援を届けました。

① 子どもの居場所・遊びの支援～災害時にも子どもの権利を守るために

すべての子どもが持つ「子どもの権利」には、学ぶことや遊ぶこと、安心して休むこと、自分を表現することなどが含まれますが、これらは特に災害時の混乱の中では守られにくくなります。どうしたらこれらの権利を守ることができるか、何が不足しているのかを、子どもたち、そして子どもたちの周りのおとなや地域社会の方々の声を聴き、外部からの支援者として補うことを基本姿勢、そして、役割として、活動を進めました。

A 広域避難所での子どもの
居場所立ち上げをサポート
(金沢市)B 避難生活が長引く中、イベント
「わくわくデー」を3日間、
計4回開催(七尾市、輪島市)C 小学校で放課後や休日の遊び場
「みんなで遊ぼう!」を2月に開始
し9月までに19回開催(輪島市)D 大学生ボランティアの皆さんが
企画段階から参加し、夏休み
に楽しい遠足が実現

② 学校等の再開支援



小学校や保育園などに文房具、防災頭巾などを支援



9月の豪雨で再び被災した保育園に寝具、着替え、おむつなどを支援



保育士、保護者、キリスト教会の教会学校の方々に「心理的応急処置(PFA)」研修を実施



寝具セットを仮設住宅12カ所の1,060人に提供

③ 子どもを支援する
おとなへの支援④ 仮設住宅への
物資支援

9月末までに4,086人に支援を届けました

()内は支援対象者に占める子どもの数

初期支援
360人(170人)子どもの居場所・遊びの支援
1,221人(488人)学校等の再開支援
1,408人(1,308人)子どもを支援する
おとなへの支援
37人仮設住宅への物資支援
1,060人(68人)
(寝具セットと子ども用プレゼント)